



宝木地区公民館だより

平成二十二年 度

公民館活動を振り返って

館長 吉田 亨

本年度の公民館事業は、ほぼ計画どおり終了することができました。これも多くの皆様のご協力をいただいた結果と感謝しております。

さて、鳥取市では平成二十年度より地域コミュニティの充実・強化を図るために、まちづくり協議会を組織化し、各地区公民館が事務局を担うこととなっております。

宝木地区でも「宝木地区まちづくり協議会」名称で設立され二年あまりになります。各小委員会ではコミュニティ計画に基づき取り組んでいるところです。公民館事業では、「宝木地区まちづくり協議会」との共催により、地引網、砂像づくり等の「宝木っ子まつり」・「文化祭」は多くの皆様に参加をいただき世代間交流の場となりました。また、事業の一つである「子どもと大人のふれ合い事業」では、大豆を栽培して味噌

「宝木の畑へ行こう」子ども事業で青大豆を栽培し、105kg収穫しました。

づくりを体験しました。猛暑のなかでの草取り、唐箕で大豆の選別等、子どもはもちろん、大人にとっても貴重な体験だったと感じられました。大豆の一部は年末のコミネットふれ合い市でも販売しました。



昨年は猛暑により開催が危ぶまれた、宝木校区運動会については時期を検討すること、通学合宿については地域で子どもを育てる視点にたち、考えていくことが必要ではないかとおもいます。

社会情勢が不透明であり、人間関係が希薄化していくといわれる今、その地元の公民館が、地域の皆様のコミュニティ拠点施設となるよう、また世代をこえて地域の皆様一人一人が生涯学習の交流の場として気楽に集える公民館になるように取り組む所存です。

さらなる地産地消に 取り組んで

佃 友恵

野菜づくりを始めてまだ五年ですが、年ごとにその楽しさや難しさを実感しています。精根込めて育てた作物は、成長をずっと見守ってきているだけに、一本一本がどれも愛しくさえ感じられます。また、生命力の強さを目の当たりにしていると、一本たりとも無駄にしてはいけないという思いとともに、地産地消に取り組んでいきます。



今年度は梅干・らっきょう・たくあん漬けを教えて頂きました。おかげさまで梅干、らっきょうも家族に好評で、孫たちも喜んで食べてくれます。たくあん漬けもそろそろ食べごろです。皆が喜んで食べてくれるとうれしいです。昔の人の優れた知恵を受け継

ぎながら、「家族が皆健康でありますように」と願いを込めて、味の伝承をしていけたらと思っています。

ご指導くださった先生にはお世話になり、ありがとうございます。また機会があれば是非参加させて頂きたいと思っております。

菊作り七十二歳の手習い

河口 重忠

日課にしているウォーキングコースに菊作りの先生の庭があります。大菊から懸崖・千輪仕立など、栽培作業が拝見でき、この時季を心待ちにして楽しく歩いています。

福助クラブに入会すれば、先生の指導と先輩会員の協力を得て、初心者でも花が咲かせられるかも。年齢を考えると先行きが不安ですが、「実習会に参加してみたら。」の言葉で入会を決めました。

クラブの目的は先生と会員の連携を密にして、よりよい福助の花を咲かせること、生育に

合わせて、実習会を月二回実施しました。

葉の色は悪いし、病気は発生するし、思うように育ちません。先生から水やりや作業手順・注意事項の説明を受け、先輩から昨年の体験談を聞きながら、実習会で共同作業を体験し、「花が咲くまでは」と更に覚悟を決めました。

育つにつれ福助づくりも忙しくなりました。栽培暦に従って、施肥、矮化処理、薬剤散布、輪台取付けなど指導を受け、生育状態、異常（虫害・病斑）、比較批評など意見交換が単独作業に役立ちました。

同じ目的を持って集まった皆さんのお世話になり、助けに感謝致します。

そしてついに大菊の花が咲きました。福助、だるまの色どりを楽しみ、充実感を味わうことが出来ました。

大菊花展（於久松公園広場）では先生の多くの作品に出合い元気をもらい、会員出品の福助の花を見て満足しました。

後日、公民館で先生・会員の作品を集め、花を眺めながら反省会。会員同士の交流と食事の味を来年への想い、そして会員増を期待します。



集団検診は生命の見張り番

宝木地区ふれまち

塩 静雄

私たちの組織は、気高町地域福祉協議会の下部組織で、「支えあい、助けあう心」を合言葉として、誰もが安心して暮らせる福祉のまちをつくらうと、地域みなさんと一緒に交流し、ふれあいながら事業を推進している福祉団体です。

事業の中で高齢者が、寝たきりや引きこもりまた、要介護予防のため、ミニデイサービス・ふれあいサロン、健康講座を設定しています。

健康講座は広い年齢層の参加を考え、企画・実施を宝木地区公民館にお願いしています。

十一月二十八日に開催された宝木地区健康講演会は、「健康づくりの地区推進協議会・コミネット宝木・宝木地区公民館」とふれまちが共同で開催しました。

「鳥取市元氣プラン」を演題とした安来保健師からは自分の体の管理・健康診断の大切さを、「健康いきいき長寿の心得、老けず・明るく・元氣よく」と題し、加藤敏明准教授より長寿のコツとして、「笑顔、食事の配慮、口腔ケア、運動習慣、夢を持つ、しゃんしゃん体操など毎日続けましょう」と話しを聞き元氣をいただきました。

今後「支えあい、助けあう心」をモットーに、皆様の助けを借りながらより充実した事業を実施していきたいと思えます。



「荒木又右衛門と伊賀越え仇討ち」を受講して

山本 寿美子

「歴史を学ぶ」それは時代の流れや背景を想像し、とてつもなく大きなロマンが楽しめる。

この伊賀越え仇討ちは単なる仇討ちと違い、外様大名と旗本の争いに転じ、天下を二分しかねない程の事態であったと言う。

荒木又右衛門は二十七歳で大和郡山藩主松平忠明の剣術師範となり、ここで渡辺数馬の姉、みねと結婚。

寛永十年、三十六歳の十一月七日伊賀上野鍵屋の辻で、義弟和馬の助太刀をし、河合又五郎を討ち取った。荒木方四名で、相手方十一名を討ち取った快挙はまさに剣豪の名にふさわしい。その後四十歳で鳥取に入り同地で没する。

講師玄忠寺住職 田中芳兼氏は気高町出身で故浜田台児画伯の甥にあたるこのことで親しみを覚えたが、何より正しい事実を伝えたいとの思いが心

に伝わった。深いお話しを聞くことが出来た。遠

からず玄忠寺に足を運び、又右衛門の「生」を感じたい。

もう一つ興味深い話があった。

「初夢や一富士二鷹三茄子」日本故事物語に由来が述べられている。一富士は富士の裾の蘇我兄弟の仇討ち、二鷹は忠臣蔵の討ち入り（浅野の家紋は鷹の羽のぶつ違い）、三茄子は伊賀越え仇討ち伊賀で仇なす（伊賀茄子をかけた）。仇討ちの成功率は百分の一と言われる。共に身を捨て親のため、主君のため、藩のため無勢で多勢に立ち向かい、いずれも大儀を成し遂げたそのことに対する民衆の賞賛が念願成就に転じ、初夢のこゝろにわがことになったと考えられる。この説、皆様はどう思われますか？



民踊 宝木一三三会のあゆみ

杉原 昭代

一三三会は昭和四十六年以前の宝木婦人会より継承して設立されました。

全国の民踊を現地指導者からいわれ等を教わり、地域に持ち帰り踊っています。

以前は、部落納涼祭でしゃんしゃん傘踊りを路地から路地へと踊り、住んでいる人も、踊り手も今日より活気があったように思います。

校区運動会には各部落へ出前講習会として踊りを普及し、先生・小学生と共にグラウンドで楽しみました。また、施設慰問、町文化祭、敬老会には続けて参加しています。

平成十三年には社団法人日本フォークダンス連盟創立四十五周年にあたり、民踊の普及振興に貢献し、生活文化の向上に顕著な成果を収めた優良団体として表彰を受けました。そして昨年には鳥取県フォークダンス連盟・県民踊指導者連盟創立四十五周年において、長

年の功労者として桶川由江さん、山崎久子さんが表彰を受けました。

今後は、若い層・男性会員の入会を促進して、老若男女が手を取り合って大きな「お・ど・り」の輪をつくりたいものです。これからも地域にとけ込み、共に元気に活動していきたいと思います。



一緒に歌いませんか

山崎 道子

「何だかごっつい楽しい」…仲間に入られて間もないある方からこんな言葉を聞き、同じ思いで嬉しくなりました。

私たちコーラス・ドリミは、四十代～八十代のメンバー三十五名から成る女声コーラスグループです。地区公民館で月二回、岡田幸子先生と亀谷晶子先生の指導のもとで練習に励

んでいます。十二月最後の練習日にはクリスマスソングメドレーを中心に、季節感あふれる歌を堪能しました。

合唱の醍醐味はハーモニーの美しさだと思います。到達点はまだ遠いのですが、自分の音痴ぶりを笑いながら、お隣の声や後ろから聞こえてくる声に耳を澄まして歌っています。童謡唱歌から、ちょっと難しい歌への挑戦まで幅広い選曲をしてもらっていますので、飽きることなく毎回練習に臨めます。

発表の場として、例年地区文化祭に参加していますが、我ながら上手くできたと思えたためしがありません。自分一人の音程さえあやしいのに、三十名が声を合わせて美しいハーモニーを奏するのは本当に難しいことです。

ともあれ、合唱の上達は三歩進んで二歩下がるのごとく、無理のない



下期公民館活動の様子を写真で紹介します。

ペースで一時間半のひとときを楽しんでいます。

ティータイムのお喋りも楽しく、「和気あいあいの仲間が良いのだ」と思うのです。どうぞ一緒に歌いませんか。

クリスマスのリースを作りました。



大豆の選別です。



よし、きれいでしょ。



宝木のおもちゃ病院



ミニ門松づくり

ツブツブにならないようによく混ぜてね



子どもクッキング

編集後記

下期公民館だよりを発行するにあたり原稿をお願いした皆様には、快く引き受けていただきありがとうございました。 「公民館だより」を読んで事業に参加してみたいと思われる方が、一人でも多くなれば編集委員としても嬉しい限りです。



敬老の日にフェルトでプレゼントを作りました。



難しいところだからじゃましないで!